

～医療生協健文会の職員のみなさま～

# メロス通信 不定期便

Vol.38  
2025年12月号  
発行 地域福祉室



## 今年をふり返り思うこと

緒方 弘征

今年はたくさんの「つながり」を実感した一年でした。職員や組合員さんから気になる人や困っている人がいると相談があったり、食料支援や班会場で組合員さん同士が声を掛け合う姿があったり、ささえ愛BOXを通じて困っている人へ物と心を届けたりとたくさんのつながりがありました。これらは医療生協だからこそできるつながりだと思います。

相談を通じて、想像以上に貧困が広がっており、困っている人の多くは孤立に追い込まれていることを感じました。孤立は制度的な支援や一時的な支援では解決は難しく、こういった「つながり続ける」という支援が求められています。来年も厳しい一年になることが予想されますが、更に多くの人たちとの「つながり」で乗り越えていきます。

進藤洋一郎

生活保護基準引き下げ違法の最高裁判決が6月末に出て、いつごろ元どおりになるか待っていたら、適法に引き下げる話し合いをしている事を知りました。食品・電気代は高騰し今の生活保護基準での日々の生活は一層つらいものになっています。私はこの最高裁判決以後、変化に気がつく時の患者さんたちの表情を少し想像していました。しかし想像するのも来年以降へ。

ウクライナとガザでの戦争が二つとも終わらず、他にも紛争多数。コロナ禍を生きのびる工夫はできたのだから、戦争を止める工夫も考えて欲しい。

7月下旬より宇部市が小中学校を通じて配布する無料乗車証で対象路線のバス運賃が無料となりました。他にさきがけていて何だか嬉しい。



## 来年もよろしく願いいたします!!

室長 森山 美千留

健文会の優しさを知った一年でした。地域福祉室設立から4年が経過し最も「仲間」を意識した1年でもあります。

見知らぬ人々のために届けられる品々、患者・利用者を心配して地域福祉室に届けられる職員の声。ケアの倫理カンファレンスでは「いのちの尊厳」に葛藤する職員の姿に心うたれます。ギャロスでは学びを深める職員の姿に明るい未来を感じ元気ももらっています。こうした小さくても大きな変化が立場の違いをこえてケアの明かりを灯していきます。

皆さんと志しを共にする仲間であることを誇りに思い、すべての出会いに感謝し、この一年を終えようと思います。どうもありがとうございました。

## メロスふれんどの会 クリスマス会

3回目になるクリスマス会は虹の家でカラオケ・クリスマス会を行いました。物価高騰のおり一入暮らしで年末らしいことがない会員にとっては、年の瀬を感じる楽しい企画になっています。たまには細やかな贅沢があるのが“普通の暮らし”であるべきです。普通をみんなで体験するのもメロスふれんどの意義。それぞれの心が満たされてきます。

皆さまから提供いただいた遊休品を少しだけお裾分けしてもらいビンゴの景品にさせてもらいました。会員みんなの笑顔がとても嬉しかったです。

